

小島地区ふれあいセンターだより



令和4年8月 第386号 運営委員会発行

愛宕3丁目10-2 電話826-7703



8月の行事予定 ※毎週月曜日は休所日です。

開催日	行事名	
2日(火)	小島地区ふれあいセンター運営委員会	午前10時～11時
3日(水)	生涯元気事業(すこやか教室)	午前10時～12時
5日(金)	子育て教室	午前10時～11時30分
12日(金)	小島愛宕地区老人連合会定例会議	午前10時～11時
17日(水)	生涯元気事業(すこやか教室)	午前10時～12時
23日(火)	小島地区民生委員児童委員協議会定例会	午前10時30分～

※上記の行事は、新型コロナウイルス感染症拡大防止等のため、日程を変更(中止又は延期)する場合があります。

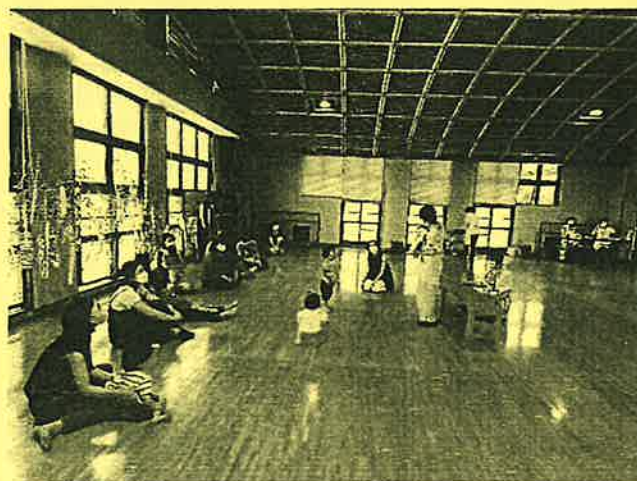
小島地区「子育て教室」の七夕飾りづくり

7月1日(金)に、長崎市子育てサポート課、小島地区民生委員児童委員協議会、社会福祉協議会小島支部・上小島支部・愛宕支部の主催による小島地区「子育て教室」が開催されました。

この日の取り組みは、「七夕飾りを作ろう」でした。

子供達は、お母さんに手伝ってもらい、七夕の笹飾りの短冊に「毎日、元気に楽しく過ごせますように」「野菜を、たくさん食べられるようになりたいです」などの願い事を書いて飾り、楽しいひと時を過ごしました。出来上がった七夕飾りは、「小島地区ふれあいセンター」の1階ロビーに飾りました。

(写真撮影時だけ、マスクを外していただきました)



「懐メロ演奏会」について

六月十九日(日)に、小島地区ふれあいセンターで、長崎市市民文化団体の「シルバー・アックス」による「懐メロ演奏会」が開催されました。

アルトサククス、テナーサククス、トロンボーン、ベース、ギター、フルート、ピアノなどの楽器や、ボーカルにより、洋楽の「枯葉」、「シャレード」、「ダイアナ」や、邦楽の「夕陽が泣いている」、「恋の季節」、「白いギター」などの曲が演奏されました。

三十五名の観客の皆さんは、青春時代に聴いていた懐かしい曲の演奏に、耳を傾けておられました。

(なお、演奏会の様子は、スマホにより、右下のQRコードで御覧いただけます)



崎陽歳時記(44)

竹方其

愛された豚食(二) その②

唐人屋敷においても、食生活に、豚は欠かすことができない食材である。

唐人屋敷の出土遺物の中にも、動物の骨の中でも豚の出土が多く、往時の食生活の特徴をしめしている。

なにせ常時二千人以上の唐人が生活しているのです、唐人屋敷の庭にて豚を飼うのでは、大いに不足する。

そこで、市中より購入するのは当然のことであった。

このように、外国人向けの豚の需要に対して、出島内、唐人屋敷内では、十分な量を賄うことは無理であった。

この需要に応えたのが、長崎における豚の飼育者であった。

秋風や血のいろ透かせ豚の耳 笠松浩子

薩摩においても、文化年間に橘南鶏という人が記した紀行文の中に、肥料を取るために豚を飼育していることがみえる。

その他、現在の千葉県、神奈川県、埼玉県、茨城県などでも、江戸時代から豚を飼育していたという記述が残っている。

豚褒める裸の薩摩隼人かな 理宇

東山手界隈 ⑥

●蝶々婦人ゆかりの地
・オペラ「マダム・バタフライ」が日の目を見るまでの流れは、次のようなものでした。

・明治31年(1898)ジョン・ルーサー・ロングが、米国で小説「マダム・バタフライ」を発表。明治33年(1900)劇作家デビッド・ペラスコが劇化する。明治37年(1904)ジャコモ・プッチーニが、オペラとして「マダム・バタフライ」を発表。

・この流れには、長崎は何の関係もなさそうです。ところが、鎮西学院の5代校長コレルのサラ婦人(1897年まで在籍)が米国に帰国後、弟のルーサー・ロングに長崎の悲しい話題として伝えたのが、この物語の発端であり、その話を元に「マダム・バタフライ」が生まれました。東山手が蝶々婦人のゆかりの地と云っても過言ではないでしょう。

ロング自身は、長崎には来たことはありませんでした。

○C・M・ウイリアムズ碑、宣教師館跡

・文久2年(1862)東山手11番地に日本初のプロテスタント教会、英国教会会堂を建設、慶応2年(1866)まで、ここにあった宣教会館に居住しました。碑の前を流れる溝、三角溝もしくはオランダ溝と呼ばれます。敷石をV字形に組み、少量の水でも流れが保たれます。外に出島、グラバー園、どんどん坂などにあります。

○英国聖公会会堂碑

・日本初のプロテスタント教会、英国聖公会会堂が建ったのが、ここ。文久2年(1862)大浦天主堂の2年前に建設されています。碑の下方の民家の裏手に有りました。

○海星学園

・明治25年(1892)浪の平町にマリヤ会の宣教師ジャック・パルツにより開校。

・明治28年(1895)現在地へ移転。明治31年(1898)本館完成。

・大正7年(1918)三階建に改装。平成2年(1990)建替え。

・平成18年女性初入学。(男女共学化)
次は、東山手界隈 ⑦

崎陽歳時記(44) 竹方其

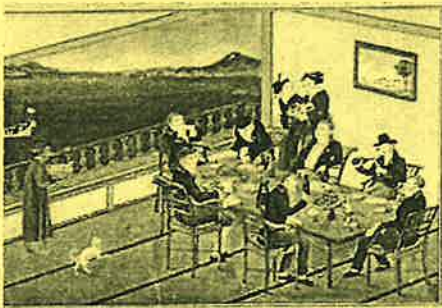
愛された豚食(二) その①

江戸時代になると対外貿易が制限され、南蛮人(スペイン、ポルトガル)が国外退去となり、彼らとの接触はなくなつたが、それによってオランダ人が出島に收容され、江戸幕府の厳しい監視の下での交流が行われた。

そのような中においても、食生活は変わるものでなかった。食生活において多少の不自由さはあつたが、出島の中に自給不足のための牛、鶏、豚を飼育する小屋が出島の図に見られる。不足分は、出島こんぶら(諸色売り込み人)が長崎市中より仕入れ、必要なものを確保した。彼らの、日本における食生活は、出島関係の図によって知ることができる。

おらんだ正月料理「オランダしっぽく」には、豚の油揚げや焼豚が食卓に並んでいるし、おらんだ冬至(クリスマス)には、豚の頭が皿に盛られているのを見ることが出来る。ということ、豚料理を食していたということである。

出島図



おらんだ冬至の再現





〈新着図書のご案内〉

	書 籍 名	著 者 名	出 版 社
一 般 図 書	言葉の圏分布考	松本 修	集英社インターナショナル
	千日のマリア	小池 真理子	講談社
	ポスト・コロナ社会を考える	天笠 啓祐	緑風出版
	不安な時代に踏み出すための「だったらこうしてみたら？」	植松 努	PHP エディターズ・グループ
	下品大全	菅原 圭	河出書房新社
	カナヘイの小動物ゆるっと♡おぼえる韓国語	カナヘイ/イラスト	Jリサーチ出版
	戴天	千葉 ともこ	文藝春秋
	江戸の雷神[1]	鈴木 英治	中央公論新社
	チャンミーグラー	今野 敏	集英社
	ペコロスの母の玉手箱	岡野 雄一	朝日新聞出版
	回想本島等	平野 伸人/編・監修	長崎新聞社
	五番勝負	岡本 さとる	光文社
	臨界 潜入捜査	今野 敏	実業之日本社
	昨日みた夢	宇江佐 真理	KADOKAWA
	化粧の裏	上田 秀人	光文社
	柳眉の角	上田 秀人	光文社
	鏡の欠片	上田 秀人	光文社
	小袖の陰	上田 秀人	光文社
	茶会の乱	上田 秀人	光文社
血の扇	上田 秀人	光文社	
児 童 図 書	世界がぐっと近くなる SDGs とボくらをつなぐ	池上 彰/監修	学研プラス
	せかいのくににいただきます！	野村 たかあき	講談社
	まちのおばけずかん	斉藤 洋	講談社
	さんねんないきもの事典 やっぱり	今泉 忠明/監修	高橋書店
	おすしやさんにいらっしやい！	おかだ だいすけ	岩崎書店
	風の神送れよ	熊谷 千世子	小峰書店
	野口英世	野口英世記念会/監修	KADOKAWA
	ジェニーのぼうし	エズラ・ジャック・キーツ	好学社
	ナガサキのおばあちゃん	高橋 克雄	『ナガサキのおばあちゃん』出版支援会
ともだちおまじない	内田 麟太郎	偕成社	